



大きな荷物や練習用具を積み込める“観光バス”は、車両選びの際の絶対条件でした。

遠征先へ向かうルートや休憩場所など、石川コーチ(左)が運行プランを計画し、鈴木監督と事前に情報を共有。

車内モニターを使って、その日のうちに試合の振り返りを行い、移動時間を有効活用。

鹿島学園高等学校は「確かな学力 豊かな人格形成 将来をみずえた国際理解」を校訓に掲げ、グローバル社会で活躍できる人材の育成を目的としています。サッカー部は、平成元年に創設。これまで全国高校サッカー選手権大会においてベスト4の実績を残し、また2020年12月31日に開幕した第99回を迎える同大会に、4年ぶり9回目の出場を果たしました。強豪校ながら、勝利至上主義ではない「人格形成」にも重点を置いた指導を実践。社会に出た後にも大切な“人間の基礎的な部分”を伸び伸びと育てています。

### 鹿島学園高等学校

住所:茨城県鹿嶋市田野辺141-9

理事長:大森伸一

開校:1989(平成元)年4月

サッカー部部員数:110名(選手106名・マネージャー4名)

サッカー部車両保有台数:3台

成長  
企業  
の  
力

# 12人目の選手として、 「安心」を支える。

大切な部員たちを乗せるのだから、何よりも安全・安心でなければいけない。

鹿島学園高等学校のサッカー部は総勢100名以上の大所帯。週末、土・日曜日のどちらかは必ず遠征試合に出掛けるため、移動手段として大人で乗れるバスが必要でした。これまでは主に中古のバスを利用してきましたが、2020年に入って部は大きな決断をしました。新車の日野セレガの導入です。

「以前、乗っていたバスが移動途中で故障することがありました。大事には至らなかったのですが、やはり大切な部員たちを乗せるので安全が第一、学校やご家族の皆さんの理解も得て、最新式のバスを導入しました。まさに“安心”を支える“12人目の選手”ですね」と鈴木雅人監督は語ります。



総勢100名を超える部を率いる鈴木雅人監督。一人ひとりとコミュニケーションを深め、気づきや自発性を重んじながら指導に努めています。

現在は、日野セレガによる安全・安心な移動に誰もが満足していますが、他にも“ある効果”があったそうです。「プロチームにも負けない車両デザインはどこへ行っても注目の的、部員たちもこのバスに乗ることに誇りを感じています。試合会場に着いてバスを降りる際は“いざ、出陣!”という感じで、チーム全体の士気が上がっています」。



## 快適な移動と万全の準備がベストパフォーマンスを引き出す。

主にハンドルを握る石川秋彦コーチは、運転中は日野セレガの快適性に支えられていると言います。「クルーズコントロール機能があるので、高速道路の走行もラクですね。驚くほど疲れないですし、遠征先に着いてすぐに指導に注力できます」。

また同じことは、部員たちにもいえるそうです。「安全・安心、そして乗り心地も格段にアップして、皆、とてもリラックスしています。移動の疲労が軽減され、そのぶん良いコンディションで試合に臨んでいます。車内モニターを活用して、直近の試合の映像を見て課題を確認し、帰りは当日の試合を見て振り返りをするといった使い方もできるので、チームのさらなる成長を後押ししてくれると思います」。



## 資金面と車両管理の課題を「日野メンテナンスリース」で解決する。

### 月々のリース代で費用を平準化。 常にコンディションの良いバスに乗れる選択。

以前は中古のバスを購入したり、観光バス会社から運転手付きでバスを借りたりしていたため、メンテナンス費や遠征費が重なり、コスト面で不安があったそうです。

その悩みを聞いた茨城日野自動車から提案されたのが、“日野メンテナンスリース”だったと石川コーチ。「月々定額でメンテナンスをしてもらえるので、とても安心ですね。安全なバスに部員たちを乗せられるので、良い選択だったと思います」。



石川秋彦コーチ

### 車両に関わる費用を一元化し、 管理業務の軽減をサポート。

日野メンテナンスリースは、購入時に発生する多額の資金調達が必要になり、月々定額のお支払いで車両を導入・メンテナンスできるリースサービスです。車両コストの管理が容易になる上、365日24時間のサポート体制により、最適なコンディションで車両を利用することが可能です。

日野自動車が扱うリース商品について詳しくは

